

平成28年度

地方創生関係交付金 事業評価調書

目次

<地方創生加速化交付金>

- 交流人口拡大・定住促進プロジェクト・・・・・・・・・・・・・・・・・・P2
  - ・ 京都産業大学井手応援隊活動拠点「むすび家ide」整備事業
  - ・ 空き家の活用促進事業
- お茶の京都DMO地域活性化推進事業・・・・・・・・・・・・・・・・・・P6
  - ・ 日本茶文化を活かした観光誘客推進事業
  - ・ 地域資源を活用した新商品の開発・販売促進事業
  - ・ お茶の京都DMO設立

<地方創生推進交付金>

- 有機栽培の薬草による健康長寿のまちづくり事業・・・・・・・・・・P10
- 今だけ、ここだけ、貴方だけ観光推進事業・・・・・・・・・・・・・・P13
- インクルーシブソサイエティ（共生で賑わう社会）推進事業・・・・・・・・P16

# 平成28年度 地方創生加速化交付金事業

交付対象事業名：交流人口拡大・定住促進プロジェクト

事業額：12,401,319円

交付金充当額：12,401,319円

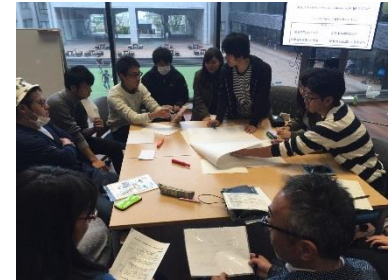
事業①：京都産業大学井手応援隊活動拠点「むすび家ide」整備事業

事業額：7,921,329円

交付金充当額：7,921,329円（補助率10/10）

事業内容

- 井手町と京都産業大学は、人口減少問題の改善を図る活動をはじめ、地域社会の発展と人材の育成を図るため、平成25年8月に連携協力包括協定を締結し、京都産業大学経済学部大西ゼミを中心に京都産業大学井手応援隊として学生らが活発に井手町の魅力発信イベントなどの取り組みを行っている。
- 本事業では、この取り組みをより発展させるため、町内の築100年以上の空き家を改修し、井手応援隊の活動拠点として整備を行った。  
改修にあたっては、井手応援隊、役場、府庁（まちの仕事人）、不動産業者、デザイナーをメンバーに加えた全3回のワークショップを開催し、活動拠点での事業内容について議論を行った上で、改修も可能な限り学生自らの手で行った。
- 平成29年度は、本拠点において、井手町における「学びと交流の場」をコンセプトに、町内小中学校と連携した寺子屋の実施や、地域の方々が交流するコミュニティスペースとして活用する。また、京都産業大学の学生・教員の教育・研究活動拠点として、地域住民への生涯学習講座等も開催していく予定。



ワークショップでの議論の様子



古い畳、伐採樹木の処分、床の張り替え、清掃等は学生自らの手で実施



H29.3月には地域の方々へのお披露目セレモニーを開催

# 平成28年度 地方創生加速化交付金事業

## 事業②：空き家の活用促進事業

事業額：5,154,373円

交付金充当額：5,154,373円（補助率10/10）

### 事業内容

平成27年度の空き家実態調査により、町内の空き家の総数は169件であり、その内、異常がなく利活用可能な空き家は、112件とされている。本事業では、利活用可能な空き家について、空き家残存家財等撤去支援を実施し、また、建物が倒壊することにより、周辺住民に危害を及ぼすおそれが高い管理不全状態の空き家（特定空き家）について、特定空き家に該当するかどうかの判断業務を行った。

### (1) 空き家残存家財等撤去支援【2,925,870円】

- 利活用可能な空き家について、所有者と利用希望者のマッチングを行う井手町空き家バンクの登録促進のため、空き家バンクへ登録された物件で、利用希望者との契約が成立し、今後一定年数程度継続して利用が見込まれる物件について、残存家財等の撤去支援を実施した。（事業①の活動拠点を含めて5件）
- その結果、平成28年度当初は空き家バンクの登録件数は0件であったが、平成29年8月末現在については、登録件数は11件（そのうち契約成立8件）となっている。

### (2) 特定空き家等調査（特定空き家等判断業務委託）【1,554,120円】

- 平成27年度に実施した空き家実態調査の結果から、「特定空き家」の該当の可能性がある建物72戸を対象として調査を行った。
- その結果、72戸中13戸が「特定空き家」として判定され、指導文書の送付（9戸）、勧告文書の送付（4戸）を行った。

※指導対象9戸（東部区2戸、北区2戸、石垣区1戸、水無区1戸、上井手区1戸、田村新田区2戸）

勧告対象4戸（西部区1戸、玉水区1戸、上井手区2戸）

# 平成28年度 地方創生加速化交付金事業

## KPI

本事業における重要業績評価指標 (KPI)	事業開始前		本事業終了時の目標値		数年後の目標値		本事業終了時の実績値	
	現状の値	年月	指標値	年月	指標値	年月	指標値	年月
空き家の利活用 (件)	0	H28. 4	5	H29. 3	10	H32. 3	5	H29. 3
空き家のうち空き店舗の利活用 (件)	0	H28. 4	1	H29. 3	1	H32. 3	1	H29. 3
交流人口 (人)	352,021	H26. 12	410,000	H28. 12	500,000	H32. 12	371,561	H28. 12

## 事業の効果

- 町内に学生の活動拠点が整備されたことにより、学生による毎年秋のイベントにとどまらず、年間を通じた町と学生との連携が可能となった。また、空き家の利活用の成功事例を創出できたことにより、今後、他の空き家の利活用促進につながることを期待される。
- 平成27年度の空き家実態調査を踏まえ、町内の利活用可能な空き家、倒壊の恐れ等のある危険な空き家のそれぞれについて、改善に向けた効果的な対応ができた。

## 今後の展開

- むすび家ideでは、夏休み期間中の寺子屋の開催や親子科学教室の開催など、地域の「学びと交流の場」をコンセプトとした取り組みを進めていく。
- 利活用可能な空き家については、空き家バンクへの新規登録に向けた周知や、残存家財等の撤去を支援する制度を継続し、空き家バンクへの登録促進、契約成立の促進を図る。  
他方、倒壊の恐れ等のある危険な空き家については、今後も継続的に調査を行い、町の税務課や水道課等とも連携を図りながら、法令（空き家対策特措法）に基づいた適切な対応を進めていく。

## 井手町地域創生推進会議による効果検証の結果

KPI（目標）に有効であるか	票数
有効であった	6
どちらかといえば有効であった	4
どちらともいえない	1
どちらかといえば有効とはいえない	0
有効とはいえない	0

### 委員の主なコメント

- むすび家ideの整備は今後の応援隊活動を加速的に進める期待がもてる取り組みであり、評価したい。（学識経験者）
- むすび家ideはとても魅力的な取り組みであり、継続して進めてほしい。地域経済を活性化するソーシャルビジネスの展開を期待したい。（言論機関）
- 交流人口増加に有効だと思う。大学生など町内で見かけることも非常に多くなった。新聞などメディアでも見ることは多くなった。（産業界）
- 未就園児童が参加し、大学生と交流できるようなイベント等であれば嬉しいし、人が集まると思う。（子育てグループ）
- 空き家の登録数は少ないが、ニーズは存在するはず。（金融機関）
- 町内の空き家総数に対して、空き家バンク登録件数が少ない。更なる目標達成に向けて進めていくべきと思う。（まちづくり団体）
- 空き家についても、サークル内でよく怖いとか危ないという声が出ているので、空き家が利活用されたり、きれいになっていくとよいと思う。（子育てグループ）
- 全ての事業においてPRが不足していると考えます。推進会議の委員でありながら「空き家バンク」以外は承知しておりませんでした。地元事業者として協力できることはしていきたいです。（産業界）

# 平成28年度 地方創生加速化交付金事業

交付対象事業名：お茶の京都DMO地域活性化推進事業

事業額：18,839,162円

交付金充当額：18,839,162円

事業①：日本茶文化を活かした観光誘客推進事業

事業額：7,938,679円

交付金充当額：7,938,679円（補助率10/10）

事業内容：

## (1)お茶の京都観光PR映画製作【3,500,000円】

井手町映画製作実行委員会のもと、町民がキャストとして参加し、本町を舞台とした「青春」×「ロードバイク」の地域映画「神さまの轍～checkpoint of the life～」の製作を行った。

昨年夏に町内で町民参加の公開オーディションの実施や、撮影時には町民のボランティアにより、炊き出し等の食事の提供や撮影協力を得た。平成29年5月には、お茶の京都映画祭として、初号試写会を開催し、映画出演キャストの舞台挨拶や、映画にご出演いただいた地域キャスト（町民の方々）によるトークショーを実施した。（今後、映画館で公開予定）

## (2)お茶の京都観光アプリ作成【2,992,680円】

町内の自然・歴史・文化を感じる観光情報を、わかりやすく効果的に発信するため、スマートフォンやタブレットといった移動型端末で利用することのできる観光情報アプリ「井手町なび」を構築し、井手町への誘致及び町内周遊観光の促進のための基盤整備を行った。

アプリには、観光スポット一覧表示や位置情報を活用したマップ表示、イベント情報通知の機能がある。

## (3)椿坂観光経営コンサルティング事業【1,445,999円】

まちづくりセンター椿坂の向かいの椿坂公園を拡張・活用し、まちづくりセンター椿坂を町の観光拠点として一体的に整備を行うために、当該事業の担い手となることが期待される井手町商工会青年部に対して、事業の方向性、運営の主体・手法等について、外部講師を招き、4回の研修会と報告会を実施した。誘客ストーリーの構築、施設の経営手法、特産品の開発等を学び、他地域の先進事例から刺激を受けることで、町内での実践に向けた意識の醸成ができた。



井手町映画「神さまの轍～checkpoint of the life～」



観光アプリ「井手町なび」



研修会での議論の様子

# 平成28年度 地方創生加速化交付金事業

事業②：地域資源を活用した新商品の開発・販売促進事業

事業額：9,500,483円

交付金充当額：9,500,483円（補助率10/10）

事業内容

## (1)名水玉川のブランディングのための井戸の掘削【8,527,400円】

まちづくり団体等によるワークショップにおいて、井手町で過ごす「ほっとする、豊かな時間」をコンセプトに、滞在時間の延長と消費額の拡大を目指し、井戸の掘削が提案されたことを踏まえ、椿坂公園東側に井戸の整備を行った。春の山背古道のは～ふウォークでは、井戸周辺でのお茶会を実施し、100名の参加者にお茶のふるまいを行った。



椿坂公園東側に掘削された井戸

## (2)お茶の京都の特産品開発等【686,478円】

井手町商工会を通じ、地元業者の協力のもと、お茶の京都にちなんだ特産品を開発。「抹茶のパウンドケーキ」「てん茶サブレ」「抹茶ラスク」「抹茶あんパン」を開発し、町の文化祭で試食とアンケートを実施。また、ブレンドしたハーブティーの試飲も実施。



レストランあんじゅ開発の「抹茶のパウンドケーキ」

## (3)お茶の京都のお茶会開催【286,605円】

町文化祭、年始の左義長の際に町内の茶道会の協力のもと、お茶会を実施。礼儀や作法にとらわれず、できるだけ敷居の低いお茶会とすることで、お茶を広く楽しんでいただいた。

事業③：お茶の京都DMO設立

事業額：1,400,000円（分担金）

交付金充当額：1,400,000円（補助率10/10）

事業内容：

京都府及び南部に位置する市町村が連携し、観光地域づくりの総合プロデューサーとして、「（一社）京都山城地域振興社（お茶の京都DMO）」を設立し、下記の事業を実施。

- (1) 宇治茶プレミアムブランド化事業による宇治茶、お茶の京都地域の価値向上、
- (2) J A 京都やましろと連携した京野菜、果樹等のブランド化・販売促進、
- (3) お茶の京都博と連携した旅行商品や体験・交流型旅行商品の開発・販売を強化し、観光客の滞在時間の延長や周遊性を強化



# 平成28年度 地方創生加速化交付金事業

## KPI

本事業における重要業績評価指標 (KPI)	事業開始前		本事業終了時の目標値		数年後の目標値		本事業終了時の実績値	
	現状の値	年月	指標値	年月	指標値	年月	指標値	年月
宇治茶販売額 (万円)	5,000	H26.12	5,500	H28.12	6,100	H32.12	7,098.5	H28.12
地元産品直売額 (万円)	4,000	H26.12	5,000	H28.12	6,400	H32.12	5,290.6	H28.12
観光消費額 (万円)	9,000	H26.12	10,000	H28.12	14,000	H32.12	11,210.5	H28.12
交流人口 (人)	352,021	H26.12	410,000	H28.12	500,000	H32.12	371,561	H28.12

## 事業の効果

- 映画製作では、住民のオーディション参加やボランティアの撮影協力を通じて、住民参加で映画づくりに取り組むことができた。また、メディアを有効に活用し、定期的に新聞やテレビで取り上げられることによって、町外へのPRも効果的に行うことができた。
- 平成28年の交流人口は、さくらまつりや地蔵院への観光客増加により、過去最高を記録している。

## 今後の展開

- 映画の公開による町の知名度の向上、交流人口の拡大を目指す。また、9月には映画ロケ地等をロードバイク等で巡るライドイベントの実施や、開発した観光アプリの活用や特産品の販売、井戸を活用したお茶会や京都産業大学と連携した名水の研究により、お茶の京都を契機とした交流人口の拡大や地域資源の研究に取り組む。
- 人材育成事業では、まちづくり団体が高齢化している現状を踏まえ、将来の世代交代の受け皿づくりとして、全国商工会の補助金を活用し、商工会青年部主導で平成29年度も継続して研修会を実施する。

## 井手町地域創生推進会議による効果検証の結果

KPI（目標）に有効であるか	票数
有効であった	5
どちらかといえば有効であった	4
どちらともいえない	1
どちらかといえば有効とはいえない	1
有効とはいえない	0

### 委員の主なコメント

- 地域映画の製作は、住民の参加感や地域への郷土愛（郷土意識）といった点を喚起することに大変効果的である。（行政機関）
- 映画により自転車愛好者の来訪が増えることは確定なので、どう生かしていくかが大切になる。立ち寄り拠点や、レンタサイクル、史跡めぐりコースの提案など積極的に取り組んでほしい。（言論機関）
- アプリを見せたらお茶が無料で飲める、お菓子がもらえる、といった特典がないとダウンロードしないのではないかと。（子育てグループ）
- 地域活性化の担い手づくりは特に重要であり、将来の世代交代の受け皿づくりを行っていく研修会に期待したい。（学識経験者）
- 名水玉川をブランド化することは評価。近隣他市町村との差別化が重要と感じる。（金融機関）
- 特産品ができたことは非常に良かったが、町民が目にする所をもっと増やしていただきたい。（産業界）
- 他自治体に比して、目立った商品開発には少々弱さを感じる。有名パティシエ、シェフ等、一流のプロと連携を考えてみては。（金融機関）
- お茶会開催があまり話題にあがらない。もっと町民にもわかるように開催してもよいのではないかと。（子育てグループ）

# 平成28年度 地方創生推進交付金事業

交付対象事業名：有機栽培の薬草による健康長寿のまちづくり事業

事業額：1,995,771円

交付金充当額：997,885円（補助率1/2）

事業内容

- 人口減少等により増加している耕作放棄地を有効活用し、町内での農業振興を図るため、薬草の試験栽培の実施や、薬膳の効能や料理に係る薬膳教室を開催することで、健康長寿のまちづくりを行う。
- 平成28年度は、町内の耕作放棄地を活用し、町内の農業者によりヨモギや紅花の栽培を行っているほか、平成29年1月と3月に薬膳の効能を学ぶ講座や薬膳料理教室の開催、また、町内飲食店等にご協力いただき、薬膳メニュー開発に取り組んだ。



薬膳料理教室の様子

## KPI

本事業における重要業績評価指標（KPI）	事業開始前		本事業終了時の目標値		数年後の目標値		本事業終了時の実績値	
	現状の値	年月	指標値	年月	指標値	年月	指標値	年月
半農半X、週末農家育成、定年帰農者数（人）	0	H28.4	5	H29.3	13	H31.3	5	H29.3
薬草の作付面積（反）	0	H28.4	2	H29.3	4	H31.3	2	H29.3
薬草の売上額（千円）	0	H28.4	500	H29.3	3,000	H31.3	0	H29.3

# 平成28年度 地方創生推進交付金事業

## 事業の効果

- 薬草の栽培場所は、主に、まちづくりセンター北側等に約2反を確保しており、ヨモギや紅花の栽培を行っている。販売額については、今年度栽培した薬草の収穫が春以降であるため、平成28年度は未販売である。（平成29年度の薬膳料理教室で使用）
- 薬草の持つ効能、また、薬草を使った料理教室について、外部講師（薬膳レストランあわさい）を招き、講座を開催。平成28年度は、平成29年1月と3月に実施しており、第2回目は募集人数を超える申し込みがあり、好評であった。  
※第1回の申込人数：17名（1名が町外）、第2回の申込人数：19名（全て町内）
- 駅前休憩場「さくら」、いでの里を運営する「社会福祉法人弥勒会」、そしてフレンチレストランの「あんじゅ」に薬膳メニューの開発を依頼し、普段の営業の中で提供していただいた。

## 今後の展開

- 町内農業者の確保が課題であるため、平成29年度からは京都ライフサポート協会と連携し、障がいのある方で事業所に通所していらっしゃる方々に農作業のサポートをいただいている。今後は、農業と福祉の連携により、農業振興だけではなく、障がいのある方の活躍の場の創出にもつなげていく。
- 平成29年度は、町内の空き地や耕作放棄地等の遊休土地について一体的に調査・把握し、空き家と同様に、土地の所有者と利用希望者とのマッチング等を行う空き地バンクを開設することで、町内の遊休資産の利活用を進めていく。

# 井手町地域創生推進会議による効果検証の結果

KPI（目標）に有効であるか	票数
有効であった	3
どちらかといえば有効であった	4.5（※）
どちらともいえない	3.5（※）
どちらかといえば有効とはいえない	0
有効とはいえない	0

（※）複数個所に投票があった場合には、小数点以下で処理

## 委員の主なコメント

- 農業と福祉の連携は様々な可能性があることであり、ぜひ積極的に進めてほしい。薬草畑を季節の景観を楽しめるような場所にもできればよいのではないかと。（言論機関）
- 耕作放棄地や空き地の活用による健康をテーマとした試みであり、今後の事業定着が期待できる。（金融機関）
- 薬草料理については、商工会と連動し、まちづくりセンター椿坂での観光商品として活用していただきたい。空き地バンクはぜひ進めてほしい。（産業界）
- 近年、長寿（長生き）への関心が高まっている中でよい取り組みである。（まちづくり団体）
- オーガニックなものに対する若者の関心は高いので、薬草に注目している点はよいと思う。薬膳料理食べてみたいです。井手町といえばの特色づくりが必要だと思うので、産業として成り立つよう願っています。（子育てグループ）
- 農商工連携の取り組みに期待。（学識経験者）
- レンタル農園が有効かと思う。（産業界）

# 平成28年度 地方創生推進交付金事業

交付対象事業名：今だけ、ここだけ、貴方だけ観光推進事業

事業額：1,325,000円

交付金充当額：662,000円（補助率1/2）

事業内容

- 山背古道とその沿線振興のため、観光案内アプリ及びホームページを活用し、「祖父母・親・子」3世代の繋がりを築くきっかけとして、交流人口の拡大や地域消費の活性化を行う。
- 特に観光アプリでは、山背古道とその沿線振興はもちろん、アプリケーションという新たな媒体を活用することによる若い世代や、国内の観光客に限らず、現在急激な伸びを示している「インバウンド」をターゲットに、山背古道散策でこれまでにないデジタル体験を提供する。



山背古道体験体感アプリ

## KPI（府全域）

本事業における重要業績評価指標（KPI）	事業開始前		本事業終了時の目標値		数年後の目標値		本事業終了時の実績値	
	現状の値	年月	指標値	年月	指標値	年月	指標値	年月
観光消費額 （億円／年）	8,183	H28.3	8,555	H29.3	10,045	H33.3	11,447	H29.3
観光入込客数 （万人／年間）	8,374	H28.3	8,499.2	H29.3	9,000	H33.3	8,741	H29.3
外国人宿泊者数 （万人／年間）	186	H28.3	209.8	H29.3	305	H33.3	326	H29.3

# 平成28年度 地方創生推進交付金事業

## 事業の効果

- 観光案内アプリの開発を完了し、メディアを活用した周知を行うことができた。
- 平成29年5月28日開催の山背古道は～ふウォークは、好天にも恵まれ盛況となり、544の方が参加し、アプリのダウンロード数は421件（平成29年6月末時点）となっている。

## 今後の展開

- 城陽市、木津川市、本町で、山背古道は～ふウォーク（春）やとことんウォーク（秋）を開催してきたが、平成29年度はウォーキングにあわせ、開発したアプリを活用した散策、アナログ遊びプロジェクト（コマ回しやけん玉、凧揚げ、紙芝居等）などの新たな事業を進めていく。その他、案内看板設置やガイドブックの作成を行う。

## 井手町地域創生推進会議による効果検証の結果

KPI（目標）に有効であるか	票数
有効であった	3
どちらかといえば有効であった	1
どちらともいえない	6
どちらかといえば有効とはいえない	0
有効とはいえない	0
未回答	1

### 委員の主なコメント

- アプリの存在自体を知らない人が多い。小学校などのICT活用として、アプリを使って授業をしてもらうことで子供へのアピールもできるのではないか。（子育てグループ）
- GPSで道に迷わないようにするのはよいと思う。（言論機関）
- 今後もアプリやホームページの更新が大切であると思う。（産業界）
- 観光アプリ開発を完了し、今後の来町が期待できる。ただし、地域消費の活性化が未知数。（金融機関）
- アプリのダウンロード数は評価できるが、その後の利活用の数字を知りたい。（産業界）



# 平成28年度 地方創生推進交付金事業

交付対象事業名：インクルーシブソサイエティ（共生で賑わう社会）推進事業

事業額：10,334,315円

交付金充当額：5,167,157円（補助率1/2）

事業内容

○障がいのある方等の社会参画支援事業【実績額：6,114,315円】

- ①障がいのある方の就労支援のための訓練施設通所事業【実績額：418,990円】
- ②外出困難な障がいのある方の福祉タクシー事業【実績額：885,900円】
- ③高齢者や障がいのある方の生きがい通所事業【実績額：3,809,000円】
- ④高齢者（障がいのある方等）のための図書館出張貸出事業【実績額：341,820円】
- ⑤高齢者から幼児への絵本読み聞かせ事業【実績額：104,017円】
- ⑥生涯活躍のための健康づくり支援事業【実績額：554,588円】

○地域で活躍する高齢者による地域コミュニティ再生に取り組む団体への補助金【実績額：4,220千円】

- ①町内の地域資源（史跡や旧跡、玉川）整備事業【実績額：70千円】
- ②青少年健全育成事業【実績額：350千円】
- ③美しいまちづくり推進事業【実績額：550千円】
- ④健全な体育・スポーツ活動の普及、振興による明るいまちづくり推進事業【実績額：3,150千円】
- ⑤高齢者（障がいのある方等）の食生活改善活動を実施している団体への補助【実績額：100千円】

# 平成28年度 地方創生推進交付金事業

## KPI（府全域）

本事業における重要業績評価指標（KPI）	事業開始前		本事業終了時の目標値		数年後の目標値		本事業終了時の実績値	
	現状の値	年月	指標値	年月	指標値	年月	指標値	年月
スポーツ、文化、芸術、レクリエーション活動への障がいのある人の述べ参画者数（年間） 【府全域】	11,636	H28.3	13,000	H29.3	17,000	H33.3	11,999	H29.3

## 事業の効果

- 訓練施設通所事業や福祉タクシー事業は、利用件数が年々増加傾向にあり、障がいのある方の社会参加促進に寄与していると考えられる。また、図書館出張貸出事業では、高齢者の方から「本を読む機会が増えた」と好評価を得ている。
- 地域団体の活動にも、高齢者等をはじめとして、多くの住民の方々が参加しており、住民参加のまちづくりにつながっている。

## 今後の展開

- 井手応援隊の活動拠点「むすび家ide」における世代間での交流や、耕作放棄地を活用した薬草栽培との連携など、福祉分野だけにとどまらず、他分野の取り組みとも連携を模索していく。
- 京都府との広域連携事業でありながら、府や府内市町村との連携が不十分であったことから、行政同士での連携についても強化すべき。

## 井手町地域創生推進会議による効果検証の結果

KPI（目標）に有効であるか	票数
有効であった	5
どちらかといえば有効であった	3
どちらともいえない	1
どちらかといえば有効とはいえない	0
有効とはいえない	0
未回答	2

### 委員の主なコメント

- 今後も高齢化が進むと思われるため、ますます必要な事業が増えていくような気がします。（産業界）
- 福祉関連事業については、高齢者の増加もあいまって、重要な事業の位置づけになると考える。農福連携等、他分野連携に期待したい。（金融機関）
- 図書館出張貸出事業は、健康づくり、3世代交流などいろいろな可能性がある事業なのでさらに力を入れてほしい。（言論機関）
- 困っている方のニーズに応えられていると思う。（子育てグループ）
- KPI未達成のため、どちらともいえない。しかしながら、本件は井手町に必ず必要となる事業と考えるので、引き続き事業を求めます。（産業界）